ICT 海外ボランティア会会報
No. 94

2020 年 10 月 1 日（木）

URL: https://ictov.jimdo.com
EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆特別寄稿
ゼロからのソフトづくり余話
当会特別顧問　石井　孝氏

◆JICA の動き
JICA 海外協力隊募集中止　事務局

◆海外実践マネジメント
今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(最終回)
元 PLDT ﾁｰﾌｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞ
元 NTT アメリカ社長
現(株)ハイホーCEO　鈴木　武人氏

◆海外グラフィティ
「半沢直樹」に思う
コロナ関連小規模事業者等臨時給付金受領する
リョウマの大往生
日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智氏

◆海外便り
コートダジュール・リヴィエラ俳柳紀行(最終回)
元 JICA ｼﾆｱ海外ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ　北垣　勝之氏

◆第 3 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様　事務局

◆第 4 回 ICT 海外情報ウェブサロン開催のご案内　事務局

特別寄稿

ゼロからのソフトづくり余話

当会特別顧問　石井　孝

ソフトウェア開発の経験が全くない素人集団を率いて、100％外注に頼っていた基幹のソフトウェアを内製に切替えるプロジェクトに取り組んだ。

若手にソフトウェアを作れと要請するのであるから、責任者である私がメンバーの誰よりもソフトウェアを理解しておかなければならない。回路設計をしていた時お世話になった上司の腕を思い出し、こう考えた。

そこで自腹を切ってパソコンを 1 台購入した。当時、プリンター付で 47 万円であったと記憶する。仕事とは別に、自宅でプログラミングの独学を始めた。プログラムが書けるようになると、実際のアプリケーション(応用)ソフトウェアを作ってみようと考えた。

たまたま親戚が町工場を経営していた。そこへ行って、「経理システムを作ってやる」と宣言、開発を始めた。ついでに簿記の勉強もしたが、3 ヶ月ほどでギブアップした。会計業務にかかわる知識が足りなかったからである。ソフトウェア開発には業務知識も必要であると、実体験を持って感じた。

次は業務が分かるものに挑戦しようと、給与計算ソフトウェアの開発に挑んだ。1 ヶ月ほどで作り上げ、今度こそ完成したと喜んだのもつかの間、すぐに改善要望がきた。「操作がしにくいので変えてくれ」、「エラーが発生して動かなくなった。どうすれば直るのか」。利用者というのは作り手の想像もしない操作をすることがよく分かった。そこで、操作方法を工夫したり、エラー処理を盛り込んだりした。

「ボーナスも計算できるようにしてほしい」などといった機能拡張の要望も出た。こうしたやり取りを続け、給与計算ソフトウェアが完成するまでに 1 年を費やした。複数のプログラムが連携を取りながら､1 つのシステムとして動くことの難しさを身をもって痛感した。また、「システムは 1 年くらいやらないと、まともなものにならないな」とも思った。この経験は仕事で大いに役立った。

本業の交換機ソフトウェアの方は、ひたすらソースコードを読み続けていくうちに、段々とソフトウェアの論理的な意味が分かるようになっていった。そこで見よう見まねでプログラムを書き始めた。

ただし、読み書きの練習だけでは成長しない。実戦が重要である。そこに舞い込んだのが、IGS というプロジェクトであった。IGS とは NTT と同時に生まれた新電電会社と NTT の市内網を接続するゲートウェイのことである。IGS のソフトウェア開発規模はそれほど大きくはなかったので、思い切って引き受けた。

試行錯誤を重ねるうちに、段々とプログラムを書けるようになっていく。そうこうしているうちに、プログラムが何本も出来上がってきた。一瞬喜んだが、すぐ次の難問に

突き当たった。それはソフトウェア開発の作業量やスケジュール管理をどうするかである。

ソフトウェアは目に見えない。メンバーがいる現場を回っても、進捗度合いはまったく把握できない。「どうだ、順調か」とメンバーに声を掛けて「うまくいっています」あるいは「困っています」といった会話をするだけだ。これではスケジュールどおりかどうかを感覚で判断するしかない。

担当者が「明日までにはできます」と言っていたが、完成したのは 1 週間後だったとか、「品質には自信があります」というプログラムがバグだらけだったということは日常茶飯事であった。

ソフトウェア開発の品質と納期をどうやって管理していけばいいのか。関連する書籍を読みあさった。ある時、IBM が実施しているプロジェクトマネジメントのセミナーがあった。早速参加してみると、講師がスライドを使いながら解説してくれた。驚いたのは、バグの発生率を示す数式があるという話だった。開発工数や進捗の度合い、プログラムの本数などに基づき、ある数式で計算するとバグの発生率が算出でき、実際に発生するバグとの誤差は 5%の範囲に収まるという。

バグの件数が計算できるなんて本当なのか。数式そのものを教えてもらおうとしたが断られた。その代わり、大体の理屈を口頭で教えてもらったので、社内に飛んで帰り、早速実践してみることにした。開発メンバー一人ひとりに対して、毎日の作業の目標を立て、実績も集める。何の仕事を何時間したかを集計し分析していった。すると、「プログラムの品質は、作成に時間がかかった部分があまり高くない」といった傾向が分かってきた。

その後も良いと言われる方法はいろいろ試したが、結局は「作業日報」といういささか原始的なやり方が一番効果的であった。現在、ソフトウェア開発の世界は非常に多様化し、現場の開発者の自己管理に任せる手法もある。しかし、サービス事業やハード製品の基盤となる中核ソフトウェアの開発については、実績をきちんと把握することが基本であると信じている。こうして編み出したポイントを「実体験から学んだソフト開発論」としてまとめた。いつか本誌でご紹介したいと思っている。

JICA の動き

JICA 海外協力隊募集中止

事務局

JICA 海外協力隊の 2020 年秋募集(長期派遣)、2020 年度第 2 回募集(短期募集)は中止となりました。

海外実践マネジメント

今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(最終回)

―『NTT を巡るグローバル環境の変化』日米貿易摩擦、AT&T 分割・再編、そして NTT のグローバル化へ―

元 PLDT ﾁｰﾌｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞ
元 NTT アメリカ社長
現　株式会社ハイホーCEO
鈴木　武人

(第 9 章：普通に怖かった話)
9-2：米国のお話

①　ホールドアップをされた件：日本からカルフォルニアへの引越しにあたり、妻から「乗り慣れたギヤ付きの車を用意して欲しい」との要望がありました。何故ならオートマではクリープ現象が怖いとの事。ただ、米国でギヤ付きの車はとても稀で、やっと中古のランチャを見つけました。その試運転をしていたら、パトカーの追尾を受け、停止を命じられ、停止すると直ぐにパトカーのドアーの後ろから警官に拳銃を向けられ、ホールドアップしてランチャのトランクに伏せろとの命令でした。数分後「落ち着け、問題ないから」と今度は小生を宥め始めました。プレート番号の関係で盗難車と思ったとの事ですが、無線で確認をとって放任となった訳で、小生も試乗中なのだと説明して双方笑い顔になりました。米国は銃社会で、直ぐに銃が出てきます。米国の家は庭が大きくて敷地の境界もはっきりしない事も多いです。海岸で普通の砂浜と思っていたら私有地であることもあり、森林を散歩していて開けた所に出たと思ったら、いきなりライフルを向けられた事もありました。そういった場合、いきなり撃たれる事は無く、かなり強い調子で『May I help you?』と言葉をかけて来ます。

②　米国での銃の問題：銃といえば、娘の学校からお知らせが来て吃驚した事が有りました。曰く『お子さんに銃を持たせて登校させないで下さい。今後は校門に金属探知機を設置し、銃を発見した際にはそのまま帰宅させることとします』。学校のカウンセラーに質問した所、『学校の周りでドラッグを売りつける不審人物が見かけられ、これを恐れた親が、「売りつけられそうになったら銃で身を守れ」と銃を持たせた様です。校内での銃による事故も想定される事から、警察も含め周辺での見回りを充実するので、銃を持たせないでくれ』とのことでした。ランドセルに拳銃を忍ばせた中高生なんて、怖いと思いませんか?

③　ホールドアップをしてしまった件：これは、東海岸での警官との逆の立場になってしまった話しです。NTT America の後任となる林氏とその知人のコロンビア大学の教授を名乗った方を乗せて、そのアパートへ送る際、彼の指示で 5 番街から 42 丁目を右折したところ NY 警察のバンに停止を命ぜられました。何が原因だか分からないまま、自分の車内で待っていましたが、余りに警官が来ないのでそのバンに行ってドアを空けた所、2 人の警官が一斉に両手を挙げました。小生が 2 人の警官をホールドアップさせてしまったのです。一歩間違えば警官側が発砲したかもしれない状況です。"Calm down.　No problem."と言って警官達をなだめて問題はおきませんでしたが、彼等もホッとして、"Thank God!"といって本当にまいった様子でした。住民の教授も知らなかったのですが、

５番街から４２丁目への右折は基本可能なのですが、その時間帯 2 時間だけ禁止になっていました。

④　複数議員からの呼出：稀に有ることでしたが、米国企業からの売込みに関し、地元の下院議員からワシントンへ呼出され、購入に関し長時間にわたってセールスというよりも『何故直ぐに購入しないか』と詰問される事がありました。立場として NTT の国際調達の内容について説明に努め、その製品が手続きに乗るか否か、さらに手続きの説明を繰り返すに他はありませんでした。議員が企業に都合の良い話をしたのかもしれませんが、その後しばらくしてその企業が下院議員から『NTT が既に購入を約した』と日本で迫ったそうです。それで本社から、小生が勝手に購入すると回答したのではないかとして、懲罰委員会に諮る可能性を告げられる事態となりました。が、その件では、たまたま日本大使館から担当公使に同席頂いていたので、議事も残っており、事無きを得る事が出来ました。東京での情勢を教えてくれた同期の方に感謝しています。

⑤　NY の社宅購入批判：米国での資産取得については真藤総裁の意向、上原国際部長の指示に基づくものでした。しかしながら、贅沢であるとか、勝手に金を使ったとか言われているとの耳打ちを戴きました。手続きとして当時の本社小原経理部長と相談の上、経理部の担当に訪米戴き、実物を検証の上、立案戴く事として居ました。耳打ちを戴いた方々にはその経緯を説明して、鎮める事が出来ました。

⑥　PANAM ビルからの事務所移転批判：電電公社の米国での歴史は PANAM ビルから始まったと言われており、これを懐かしむ方々は多く居られます。しかしながら PANAM 航空は今は無く、またビルも MetLife と名前を変えています。移転の経緯は事務所の天井から多量のアスベストスが落ちて来て、入室どころか近づく事さえ出来なくなってしまった事によります。確かに本店登記を変更するには取締役会の議決を経る必要が有りますが、緊急避難という事で、後付けでお許しをお願いしました。

⑦　Teknekron 社への通信網設計ソフト発注：今でも有効なシミュレーションシステムと思いますが、この種ソフトは使い込みで性能が向上するはずです。また、半年間完全無料メンテナンス契約をつけていたのですが、割当てられた担当者が赴任間もなくで手が回らなかったのか、店晒し状態にしてしまったのは残念な事でした。

⑧　国内線ファースト利用批判：米国への国際便のビジネスクラスからは自動的に米国内便はファーストクラスとなります。当時担当者もビジネスを利用できましたが、NTT America では国内便は役職に関わらずエコノミーとしていました。ただ、航空会社によって、10 枚綴りの回数券(数百ドル)で席が空いている状態でエコノミーからアップグレード出来るアレンジがありました。殆どの状態でこの回数券が有効でしたが、その購入は勿論私費で、妻の旅行にも利用していました。ただ、某幹部との雑談の際、不正にファーストを利用しているとの訴えがあったので気をつけろとの話がありました。世の中なかなか難しいものです。そんな状況でしたので、米国からの帰国の際には、溜まったマイレージでファーストクラスを利用し、赴任旅費等を請求する事も無く戻りました。
(完)

海外グラフィティ

「半沢直樹」に思う

日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智

田宮二郎が演じた山崎豊子の傑作「白い巨塔」が、かつて視聴率３２．１％を記録したが、今話題の「半沢直樹」は、最終回は実に３２．７％を記録した。テレビ業界で二けた行けば成功、２０パーセントでお化け。３０パーセントはお化けの上を行くものだ。本来面白味の無いはずの銀行員ものが、原作はいざしらず、脚色によってこうもわくわくする作品に生まれ変わるのかと思うと、フィクションのもつ魔力は大したものだ。

およそ、サラリーマンでは言えそうもないセリフを、企業社会の上下を無視して言いたい放題言っているところに、普段職場で鬱屈しているサラリーマンの共感を呼ぶのであろう。

３０代のころから仕事柄、銀行対策に頭を悩ましていた自分にとって、セリフのひとつ一つが心に響く。銀行とは「晴れの日に傘を貸してくれるが、雨の日には奪ってゆくものだ」は本当のことである。「銀行残高がゼロ或は赤字」という経験をした人間は大企業ではあまり多くは無いだろう。

ガーナ郵電公社時代、給料日に給料が払えなくて、２～３日まえからキリキリと胃が痛んだものだ。しまいには、自ら借金取りに回って収納率を２５％から日本並みに９５％まで上げて、自死の恐怖から免れた。このガーナ郵電公社・ＣＦＯ時代の経験が後日、中小企業の社長時の資金繰りに生きた。まず、銀行が「カネを貸す、貸さない」の判断基準は、企業の返済能力を見る。手元流動性というやつだ。端的に言うと、借入金の額に対し現金の割合が多ければ多いほど銀行は貸しやすいというわけだ。これはバランスシートを見れば一目でわかる。次に、銀行は安全を見て「経営者保証」を取る。経営者の財産目録を出させて、いざ借入返済ができないときには、経営者に自己の財産を売却して返済に充てさせるのだ。本来は、銀行側の目利きが良ければ、このようなことはさせないのだが、中小企業経営に疎い銀行員にこの「目利き」の能力は無い。

中小企業の代表に就任した時に最初に取った非常手段は、この経営者保証を外させる代わりにメインバンクの地位を与えることだった。メインバンクになると、大量の資金が流入してくるという大きなメリットがある。そして、一行で経営者保証を外すとあとは邦銀の典型例「護送船団方式」で次々、経営者保証を外してきて、結局全行外すことに成功した。経営者保証は、歴代の経営者に踏襲されるから、遡っていく代か前の者まで外される。おかげで歴代の社長には大いに感謝されたものだ。半沢直樹のドラマの中で、膨大な倉庫の中の資料を探し回る場面が出てきたが、実際たまりにたまった古い紙ファイルは膨大で大変な時間を要するらしい。

メインバンクの変更は「メガバンクから地銀へ」だったので、最初は、田上はとうとう狂ったかと言われたりしたが、当該地銀の頭取がたまたま同じ大学出身でＯＢ会でも名刺交換しており、昵懇の仲だったことも幸いした。「企業は人なり」の典型例だ。（完）

コロナ関連小規模事業者等臨時給付金受領する

日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智

在住する市より、８月１７日に既に提示した銀行口座に１０万円振り込むとの通知を受けた。当初、申し込みが６月いっぱいだったのを妻が新たな市のチラシを見て、期限が7月末まで延長されたため、７月２２日になって急遽、市の経済政策課に持参して受付してもらった。幸い在住する市は県からの補助金を必要としないほど豊かで、このような施策を打てたのだと思う。

コロナは一向に収まるどころか、爆発的には増えてはいないものの、経済の活性化を促すため緩和策をとったため、人の移動が活発になったり、若者があまり気にせずにカラオケ屋に出入りしたりで徐々に感染者が増えつつある。ＧＯ　ＴＯキャンペーンなど、まさに瀕死の居酒屋にとっては一時の潤いにはなるだろうが、焼け石に水の金額であることには違いない。一桁あるいは二けたも金額がちがうのではないだろうか？

市の条件はおよそ次のようなものである。自分の場合は個人事業主だが、

１．コロナの影響でコロナ前とコロナ後を比較して売り上げが減少していること
２．それを示す書類の提出
３．開業届の提出
４．最新の確定申告書の控えの写し
５．本人確認の書類の写し
６．その他・例えば過去の市民税の完納の調査など

コロナの被害の報道がなされているが、公務員や議員或は大企業の社員などは或はあまり身に降りかかる損失は無いかもしれず、まさに対岸の火事に過ぎないかもしれない。一方で、大企業でも派遣社員の雇止めの話は報道されるし、求人倍率も例年になく低下している。自分に置き換えても、現実に収入減はあり、今回の申込みにつながった。

個人的には、コロナで業務上、例えば営業で以前のように気軽にお客さんがあってくれなくなったり、接待がほとんどできないなどの弊害がある。それで数字的には売り上げ減なのである。今７４歳で後期高齢者一歩手前だが、未だ働かざるを得ない事情もあり、確かにコロナは痛い。やはり、今後の展望としては、ワクチンの出現を切望するものである。

世界４８カ国ビジネスで歩いた人間としては、はるかに罹患率が高い諸外国の情勢も気になる。私はアフリカのガーナにも３年間滞在したが、アフリカ大陸の感染の広がりが特に気になる。医療環境を知っているだけに余計気がかりである。１年間留学で滞在したアメリカ・ロスアンゼルスやテレビ局の取材でしばらく滞在したブラジルも、メディアの情報では爆発的に感染が広がっているのが誠に残念である。さて支給予定の１０万円の使い道であるが、我が事務室兼書斎のエアコンが相当古く、ぼろぼろの状態で、夏は熱風、冬は冷房の状況なので性能の良いエアコンを購入して、今以上に増収を図り、従来の売上減を取り戻すつもりである。（完）

リョウマの大往生

日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智

幕末の志士坂本竜馬の逝去ではない。わが愛犬ミニチュアダックスの昇天のことである。

つい数日前に天に召された。通常、この種の犬の寿命が１５～６歳であるが、実に１９歳5か月まで生きた。人間であれば優に１００歳は超えている年齢である。因みにギネスの世界記録は２１歳というから相当いい線まで行ったのだ。

全く病気知らずの強い犬で、歯茎が化膿したぐらいだったが、終わりごろは、ヘルニア、白内障、緑内障で歩くことも、寝返りもままならず寝たきりだった。ただ、聴覚はあったらしく、妻が呼びかけると唸り声も収まった。昼夜逆転の気味があり、夜中に叫ぶ声で自分でも目が覚めることがままあった。やや肥満気味で標準で５キロのところ常に6キロをオーバーしていた。が、死ぬ間際、極端に体重が落ち、３．５キロになってしまっていた。

犬と人間のかかわりは数万年前かららしく、ペットはもちろん、牧羊犬や麻薬感知など警察犬或は救助犬としても大いに活躍していることは承知のとおりである。日本全国では、犬猫あわせて１８００万頭いるという。

リョウマとの出会いは、生後２ヶ月くらいで、ペットショップで、折の中から我々夫婦を見て、親し気にしっぽを振っているのを去りがたくなり相場の代金を払って即決で買い求めた。それまでは、せいぜい金魚やインコなどの魚類や鳥類だったが、飼ってみて、哺乳類とはかくも人間の意志が伝わるものかと感心したものだ。最初は金網に入れて夫婦の寝室と離れて置いていたが、あまり鳴くので金網から出し、同室のしかも同じ布団に入れたものだ。面白い習性があった。自分が会社に出かけるときは機嫌が悪く、妻がだっこして見送る際には絶対に顔を舐めなかった代わりに、帰宅してソファーに横になっているとぺろぺろと顔中なめまわし、しまいには目玉に及ぶことがばしばだった。

また、社会性があまりなく、他人には猛烈に吠えたが、一晩でも家で過ごした人には、それからは決して吠えなかった。一晩泊まればアミーゴのなるのだろうか？今でも心に強く残るエピソードがある。十年ほど前、体調を崩した妻の母親が養生を兼ねて我が家に滞在していたが、薬石功なく他界した。遺体を安置した８畳間で仮通夜が行われ、浄土真宗の僧を川越から呼んだが、ぞろぞろと近所の人の後をリョウマがついてゆき、敷かれた一つの座布団に生意気にもちょこんと単独で座った。そこで、読経が終わるのを待って皆と一緒に部屋を出て行った。誰からも指示されたわけでもないのに、状況を読んでの行動だったのだろう。「犬や猫は人間の言葉を理解する」と言われているが、本当にそうなのだろう。

今、リョウマは火葬が終わり、骨になって、我が家に骨壺で安置してある。今でも、まだ、家にいるような気がして典型的なペットロスで自分は放心状態である。江戸時代、「犬公方」と呼ばれた五代将軍・綱吉は「生類憐みの令」を出し、ことさらに犬をかわいがった。将軍自身も戌年のうまれで私自身も同じである。リョウマの冥福を祈る。(完)

海外便り

コートダジュール・リヴィエラ俳柳紀行(最終回)

元 JICA シニアボランティア
北垣　勝之

わが傘寿パスタで祝うラ・スペチア
ピサのピザ窯出しふっくら色づきて

イタリアの食と言えば何てったってピザかパスタ、今回の旅行中も一年分の食溜めをする。人が列をなすような店で熱々のピザを頬張るのは、現地食道楽の権化ともいうべきこと。トリノやジェノバも美味かったが、ピサで食べたピザが一番。やはり南下するほど焼き方が上手くなり、究極は本場のナポリに行き着くようだ。ただしミラノは例外、極上の店がいくつかある。いつも定番のマルガリータで品定めをする。一方、パスタについても同様だが、添えられる具によって評価はいろいろ、山菜キノコや海鮮魚貝入りと味わいが変わる。以前食したヴェニスでのカラスミ入りや、アマルフィ海岸で挑んだ自作スパゲッティはグッド。今回はわが誕生日祝いを兼ね、ラ・スペチアの中級レストランで奮発、高級そうなナポリタンパスタを食す。あっさりした味付けで上品な味、食べながら「これなら家でもできそうだわ」と宣う家内への投資と思って納得する。

貸し切りの斜塔に遊ぶ雨も好し
懐かしき斜塔に響く日語かな
ピサ詣で一度芽出たし二度目アホ
股旅爺(またたびじい) 見て食べ上る三度笠

忘れじの白亜の斜塔美しき
いざ螺旋階段を高さ 55ｍの登頂へ
(トッレ・ペンデンテ)

来て見たが未だ鐘の音聞かぬかな
いつ鳴らす、打鐘して日本まで轟かそう
(ピサ斜塔天辺)

見下ろして威風堂々ドゥオーモ好し
大聖堂、斜塔鐘楼ともに 12C の建造
(ピサ、ミラーコリ広場)

聖堂内、天蓋高く広々と
奥行き 100ｍ、造作装飾、天下一品
(同左)

ピサ詣では私が 3 回目、家内は 2 回目である、うち私は斜塔へ 1 度登楼したことはあるが、家内は未登楼なので今回敢えて立寄ることにした。以前、私が一人で来たときは夕方で大変な混雑、現地予約の順番待ちで塔に上った。1 グループ 40 人、上るも降りるも数珠繋ぎ、押し合い圧し合いの一仕事であった。今回は事前に日本から早朝入塔の予約、しかも雨降りで人出はほとんどない。お陰で楽々登楼、ピサ斜塔を独占、塔屋にはオーストラリアから来た女性が 1 人いただけ、天下のピサ斜塔から橙色の市街とトスカ

ーナの山並みを満喫する。高さ 55.86m、傾斜角 3.99 度、296 段の石段を往復した。下段の折、塔内に日本語の響きを聞く。「ドッコイショ、あゝ、疲れた」、男の子の後に一人の老婆が上ってくる。彼女の発する言葉を聞いて「どこからお出でですか」と問えば、ブラジルのサンパウロから来た二世の人、息子家族に連れられて一家でやって来たのだ。それでも孫の先導で元気よく上る姿に安堵の気持ちがこみ上げる。入植地で多々苦労したことと思うが、人生終わりよければすべてよし、お互い余生を頑張ろうと心の中で呟きながら別れる。一度上れば良し、それを二度も上る阿呆がいる。どうせ阿保でも良い経験になったと自認する次第である。

高級地成金繁茂格差生む

フランス社会の階層化は極端な所得格差の賜物である。例えばルイヴィトン(Loiviton)のトップは従業員平均報酬の 150 倍を得る。他にその格差が 170 倍の大企業もあると言われている。これを容認するお国柄、正当な競争社会を通り越して極端なエゴ差別化を産み出す。まさにカルロス・ゴーンを日産に押し付けてきた体質である。歴史的にはブルボン王朝の栄耀栄華がその根底にあり、自由・平等・博愛は革命時の一時的なキャッチフレーズに過ぎない。これが今日フランス全土に蔓延、特にプロヴァンスからコートダジュールにかけても顕著な現象となり表出している。再びテロや革命が起きないとも限らない。リゾート地のちぐはぐ感からフランス格差社会について再考しておく。

庶民的市場に燃える旅心
品揃えスーパーに客満つ大繁盛

海外旅行で最もエキサイティングな場所は市場である。今回も各地のマルシェ(marché)やメルカート(mercato)には極力足を運んだ。ニースの目抜き通りに面したスーパーマーケットは奥行きが広く、生鮮食品から生活用品の小物まで何でもある。旅の初日、空港に着いたとき一緒になった日本人女性二人とお互いコートダジュールの行動予定を話し合った。彼女等は東京・中野からやって来た熟年二人連れ、なかなか旅慣れた様子でニースを中心に 5 日間滞在するという。私達は 3 日目食料調達のため件のマーケットに立寄る。すると店内でこのお二人にばったり出会う。買い物かごには土産品と思しき品々がすでに満載、井戸端会話が始まる。挙句の果てにあれも買えこれも買えと勧める。銀座では倍額の品だとか、日本にはない重宝な品など買物情報の機関銃掃射を受ける。そのうちの幾つかを調達する羽目になった。彼女等はすでに何回も当地に来ているそうで、航空運賃の最も安いこの時期を狙い、ホテルも予約せず行き当たりばったりの交渉で決め、食事はスーパーマーケットで調達して自炊するという。天晴れな旅の達人である。

ジェノヴァのフェラーリ広場からコロンブスの家に寄り約 1km 歩くと、メルカート・オリエンターレという大きな市場に着く。外見は昔からの構えだが中は現代風にアレンジ、小売店ブースが並ぶ。地元客が多く各所で売り買いの会話が和気藹々と弾む。若夫婦が肉屋の前で買ったばかりの肉片を連れの大型犬に与えたり、お年寄りが花屋でブーケ(bouquet)や花卉を話しながら物色する。明らかに単なるスーパーストアとは違う。人間同士のコミュニケーションの場になっている。私達もその仲間に入りバナナを一房買うことにした。店主親父の講釈と値段をイタリア語で聞いたがよくわからない。財布のカネを掌に載せ彼に取ってもらう。立派なバナナが一本 5 円相当、安い！　日本では絶対にあり得ない価格だ。

ホテル部屋珍客乱入ダブルブック
土産なる献呈ワインせしめるか

私がバスタブに浸かっていたとき、何者かが急に部屋に入ってきたようだ。家内が「ここは〇〇番ですよ」と喚くのが聞こえる。若い男の声もする。実はアジア系の若い男性が二人、自分の部屋だと言って入って来たそうだ。受付で確認してくれと追い返したが、私は出られず彼女は言葉の通じない彼等の闖入に一時はパニックに陥ったようだ。その後フロントから電話で私の名前と部屋番を尋ねてきたが、あとは胸糞が悪く一切関わらず寝ることにした。翌朝目が覚めると、入口のドアーの下からカードが一枚覗いている。取り上げてみると、そこには'Dear Mr and Mrs Kitagaki, on behalf of the staff and myself, we would like to apologize for the inconvenience. We wish to continue a pleasant experience with NH Hotel Group! Best regards, General Manager'と書かれたホテルからの詫び状である。そしてドアーの外には床上に赤ワインが 1 本置かれていた。本状は宛名の部分だけ手書きで他は印刷済みのもの、よくある事なのかもしれない。ワインはイタリアを離れる日のこと、朝っぱらから 1 本空けるわけにもいかず、そのまま日本への土産にする。

古傘(ふるかさ)やピサ空港のゴミとなれ
名残り惜し傘を捧げて旅の締め

近年の海外旅行には20年以上も昔の香港時代に買ったブランド傘を持参して出かけてきた。しかし好天に恵まれ中々出番がなかったが、今回、マントンとピサで使う機会が訪れた。さしもの傘も年季には勝てず、とうとう一部の骨が腐り滑落した。最早これまで、外遊の証にピサ空港で今生の別れをすることにした。少々未練はあるが、日本まで持ち帰ることもあるまい。土産品の身代わりとなってイタリアの地で「骨」を埋めて貰おう。

異文化や五感くすぐる旅冥利
旅行けば天知る地知る人を知る
母思うマルコの旅に凌ぐ無し

旅には異文化との出会いがある。また不測のリスクに遭遇することもある。そういう未知なるものを学び楽しむ余裕がなければ旅はできない。常に目(視覚)、耳(聴覚)、鼻(臭覚)、口(味覚)、手(触覚)の五感を研ぎ澄まして行動、未知なるものを察知する。その結果、行く先々の国において「天地人」を理解することになる。ともあれ建前は横に置き、まずは実践修行に勤(ｲｿ)しむことが肝要である。旅の成果を紀行文にしたためるのも、未知を既知に変える重要な作業の一環である。

世間にはいろんな旅があり、「旅行記」も記録報道、日記、物語風など種々雑多である。そんな中でイタリア人のマルコ・ポーロ(1254～1324)「東方見聞録」とエドモンド・デ・アミーチス(1846～1908)「母を尋ねて三千里」に注目したい。前者はヴェニスの出、宝石商の親父と共に 1271～95 年中央アジアから元の大都(北京)に赴いた際、各地で見聞した様子を後年ジェノヴァとの海戦に敗れ、囚われて獄中で口述筆記した記録である。一方、後者はジェノヴァの貧しき医者の息子マルコが、苦しい家計を補うためアルゼンチンへ出稼ぎに行った母親の消息を尋ねて会いに出かけるという筋書きで、10 歳そこそこの少年がただ一人僅かな所持金でジェノヴァ港から船に乗り、南米アンデスの雪嶺が見える片田舎まで 1 万 km を超える壮絶な旅の創作である。両者とも海港都市ジェノヴァ

に縁ある傑作、口述記録と小説童話の違いこそあれ未知なる旅への憧憬をそそられる。

旅の首尾天気好ければ不可は無し
旅カラス終始見定め巣に戻れ

きな臭き国々跨ぎ帰路急ぐ
機内ナビ、スピード遅く気は速く
(カタール航空 134 便＆806 便)

今回の旅では 2 回驟雨に見舞われたが難儀に至らず、概して穏やかな晴天の日が続いた。お陰でほぼ予定通りの円滑な旅行ができたと思う。旅の成果はともかく、旅行者の身体の方に問題が生じることを懼れる。わざわざ身体を酷使して無茶修行を続ける必要があるのだろうか。育ちざかりの少年マルコなら苦難はすべて肥やしになる。あの大草原(La Pampa)を熱情だけで彷徨する冒険も可能であろう。八十路を跨いだ老爺には、いつ他人様にご迷惑が及ぶような災いが発生するかもしれぬ。自己都合主義の無責任で旅するわけにもいかない。そろそろ人生の着地点を想定し身のほどの旅に収めることにしよう。カラスも日暮になれば己が巣に戻るように。(完)

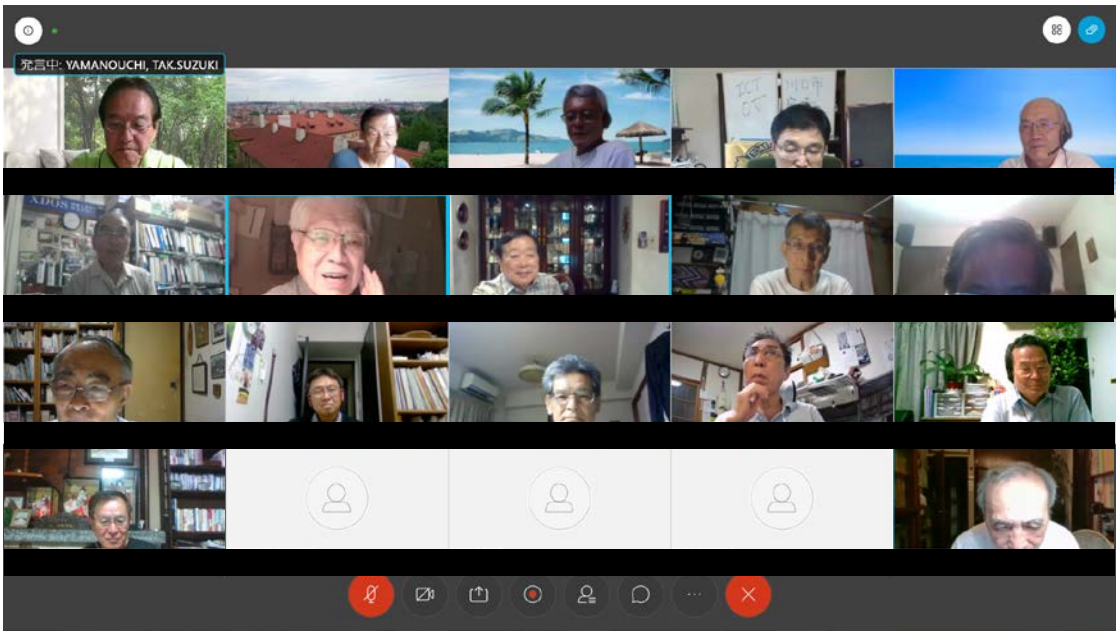
＜日程＞
1/21(Mon) NRT(QR807)22:20→05:00DOH
1/22(Tue) DOH(QR053)07:55→13:10NCE 空港ﾊﾞｽでﾏｾﾅ広場へ、ﾎﾃﾙﾁｪｯｸｲﾝ後ﾆｰｽ市内散策(旧市街、ｻﾚﾔ広場、城跡展望台、ｼﾞｬﾝ・ﾒﾄﾞｻﾝ大通り等)。 ﾆｰｽ泊(Hotel Aston La Scala)
1/23(Wed) ﾊﾞｽでﾓﾅｺ & ﾏﾝﾄﾝへ(ﾆｰｽLe Portﾊﾞｽ停 100 番ﾊﾞｽ、行き先:ﾓﾝﾃｶﾙﾛ(ﾓﾅｺ)orﾏﾝﾄﾝ)、ﾓﾅｺ散策(ｶｼﾞﾉのﾓﾝﾃｶﾙﾛ地区からｱﾙﾑ広場と大公宮殿のあるﾓﾅｺｳﾞｨﾙ地区間は徒歩移動)、ﾏﾝﾄﾝ散策(略)、帰途はﾏﾝﾄﾝから 100 番ﾊﾞｽでﾆｰｽに戻る。 ﾆｰｽ泊(Hotel Aston La Scala)
1/24(Thu) am.列車でｱﾝﾃｨｰﾌﾞ(古城のﾋﾟｶｿ美術館)へ立寄りｶﾝﾇへ、ﾊﾟﾚ・ﾃﾞ・ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ・ﾃﾞ・ｶﾝﾇ等街中散策、pm.ﾊﾞｽでｸﾞﾗｰｽ(香水の都)を経てﾆｰｽに戻る。 ﾆｰｽ泊(Hotel Aston La Scala)
1/25(Fri) 列車でｳﾞｪﾝﾃｨﾐﾘｱ経由ｼﾞｪﾉｳﾞｧへ、NiceVille09:38→10:34Vintimglia11:03→13:08Genova Piazza Principe、地下鉄で De Ferrari 駅、ﾎﾃﾙﾁｪｯｸｲﾝ後市内散策(赤・白の宮殿、ﾄｩﾙｼ宮(市庁舎)、王宮、大学宮殿、etc.)、 ｼﾞｪﾉｳﾞｧ泊(Hotel NH Genova Centro)
1/26(Sat) am.ｼﾞｪﾉｳﾞｧ市内散策(ﾌｪﾗｰﾘ広場、ｺﾛﾝﾌﾞｽの家、市場、ｷｵｯｿｰﾈ東洋美術館 etc.)、列車(ﾌﾚｯﾁｬ・ﾋﾞｱﾝｶ 8606)でﾄﾘﾉへ、Genova Piazza Principe11:59→13:40Torino Porta Nuova、ﾎﾃﾙﾁｪｯｸｲﾝ後ﾄﾘﾉ市内散策(自動車博物館、近隣ｽｰﾊﾟｰ・ｲｰﾀﾘｰ、 etc.)、 ﾄﾘﾉ泊(Concord Hotel)
1/27(Sun) 終日ﾄﾘﾉ市内散策(ｴｼﾞﾌﾟﾄ博物館、ｻﾝ・ｶﾙﾛｴ広場のｶﾌｪ・ﾄﾘﾉで休憩(ﾋﾞﾁｪﾘﾝに挑戦)、王宮、ﾎﾟﾙﾀ・ﾊﾟﾗｯﾂｫ市場、etc.)、 ﾄﾘﾉ泊(Concord Hotel)
1/28(Mon) am.Torino から Genova 経由 La Spezia へ、Torino porta Nuova(ｲﾝﾀｰｼﾃｨ 511)10:40→13:50 La Spezia Centrale、ﾎﾃﾙﾁｪｯｸｲﾝ後ﾗ・ｽﾍﾟﾂｨｱ市内散策、ﾊﾞｽでﾎﾟﾙﾄ・ｳﾞｪﾈｰﾚ往復(夕食は Osteria della Corte) ﾗ・ｽﾍﾟﾂｨｱ泊 (Hotel Firenze & Continental)
1/29(Tue) am.ﾁﾝｸｴﾃｯﾚ踏査は止め、ｻﾝ・ｼﾞｮﾙｼﾞｭ城近辺散策 10:00 頃の普通列車でｳﾞｨｱﾚｯｼﾞｮ経由ﾋﾟｻへ、 ﾎﾃﾙﾁｪｯｸｲﾝ後電車でﾙｯｶ往復(ｻﾝ・ﾐｹｰﾚ・ｲﾝ・ﾌｫﾛ教会 etc.中世の町を散策)、ﾋﾟｻに戻ってﾋﾟｻ旧市街散策、ﾋﾟｻ泊(Hotel NH Pisa)
1/30(Wed) am.斜塔(入塔 9:45)、ﾄﾞｩｵｰﾓ聖堂見学、その後歩いてﾎﾃﾙへ戻り、荷物を受取り、ﾋﾟｻ中央駅南側から Monover(索道牽引車)でﾋﾟｻ空港へ、PSA(QR134)15:40→23:45DOH
1/31(Thu) DOH(QR806)01:55→17:55NRT
＜費用＞総額：327,487 円（2 人分）
内訳：航空賃 179,780、ホテル代 91,970、交通費 13,780、飲食費 24,417、入場料 10,140、その他(資料代、土産等) 7,400（以上円、換算率 130 円/€）

ウェブサロンの話、あれこれ

第 3 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

事務局

第 3 回 ICT 海外情報ウェブサロンが 2020 年 8 月 29 日(土)19 時 30 分～21 時、ウェブ会議室において開催された。テーマは「外国語学習をしてみたら」であり、当会の安達幹事からトーストマスターズ(世界 143 か国､36 万人の会員を有するパブリックスピーチ学習団体)を紹介し、話題のきっかけを作った。また、ウェブ会議室システムの投票機能を活用していくつかの話題候補の中から話題選択したが、ウェブサロン(井戸端サロン)らしく、話題は自由に広がりのあるものとなった。終了後は、毎回好評のオンライン飲み会を実施し、22 時 30 分まで話が尽きないものとなった。



＜事務局注＞安達幹事のプレゼン資料は、同氏のご厚意により、下記サイトからダウンロードすることができます。

https://ictov.jimdo.com/home/海外情報談話会/

お知らせ

第 4 回 ICT 海外情報ウェブサロン開催のご案内

事務局

ICT 海外ボランティア会(ICTOV)による第 4 回 ICT 海外情報ウェブサロンを下記のとおり開催いたしますので、ご多忙とは存じますが、奮ってご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

1. 日時：2020 年 10 月 31 日(土) 19 時 30 分～21 時(日本時間)
   なお、今回は毎回好評を得ているオンライン飲み会を最初から同時開催いたします。
2. 場所：ウェブ会議室(Webex を使用)

3. テーマ：「旅の想い出」
4. 参加費：無料(会員制ではなく、どなたでも参加できます)
5. 定員：100 名(先着順)
6. 申込方法：参加ご希望の方は、下記連絡先にご氏名及びウェブサロン参加希望の旨をご連絡ください。
   ＜連絡先＞　ICTOV 事務局　info.ictov@network.email.ne.jp

☆参加者の旅の想い出や失敗談などについてご紹介いただき、ご自宅等にいながら気軽に楽しく、少し旅行気分を味わい合うものです。

(注)ウェブ会議室(Webex)への参加方法は次のとおり簡単です。パソコン(カメラ・マイク付)、スマホ、タブレットのいずれでも可能ですが、パソコンが簡単で見やすいのでお勧めいたします。

①Webex Meetings アプリ(無料)をインストールされていない方は、事前に下記サイトで Webex Meetings アプリをダウンロードし、インストールする。
https://www.webex.com/ja/downloads.html
その後、下記サイトでご自身の映像が見えることをテスト通信・確認し、当日を待つ。
https://www.webex.com/ja/test-meeting.html

②当日開始 15 分前までに、ウェブ会議室サイトの案内が参加申込者あてにメールで届くので、メールで指定されたウェブ会議室サイトをクリックする。その後、お名前(表示用)、メールアドレス(登録確認用)を入力し、参加ボタンをクリックして入室する。

編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 94 号を発行することができました。今回は当会の石井特別顧問から「ゼロからのソフトづくり余話」のご寄稿をいただくとともに、海外実践マネジメント、海外グラフィティ、海外便りのご寄稿も継続していただき、誠にありがとうございます。その中で、海外実践マネジメントと海外便りは最終回になりましたが、これまで長期間にわたるご寄稿を感謝いたします。また、海外便りについては別の俳柳紀行をご寄稿いただけるとのことであり、楽しみにしております。

ウェブ会議室を活用し、全国・全世界から参加できる「ICT 海外情報ウェブサロン」は 3 回目を開催し、運営も少しずつ慣れてきたように思います。終了後のオンライン飲み会も盛り上がり、リアルと同じような意見交換の場となっております。ご参加の皆様のご協力に感謝するとともに、第 4 回開催もご案内しておりますので、当会の皆様が多数ご参加いただければ幸いです。

当会及び当会報へのご感想、ご意見などございましたら、下記サイトにご記入いただければ幸いです。皆様からのさらなるご寄稿をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
https://ictov.jimdo.com/コメント/

発行：　ICT 海外ボランティア会(ICTOV)
会報担当：　空席のため募集中　(編集長兼広報部長)、山川　博久(事務局長)
ホームページ担当：　山崎　義行(報道部長)、安達　信男(幹事)